



インタビュー

釧路支庁長
阪元 兵三氏

北海道において重要な4つの基幹産業

釧路空港カテゴリー III A 完成で変わる道東観光

の釧路沖地震の災害復旧の公共事業の伸びが大きいこと、それと各市町村が地域振興に力を入れているということもありまして、まあまあ活況を呈している状態であると私たちは捉えています。

公共事業は前年度比40%の伸びを示しておりますし、住宅着工戸数も15%ほど伸びておりますが、問題は水産ですね。前年度対比が数量で42%、金額で73%と急激に落ち込んでいます。とくに鰯が全然だめで、昨年の水揚げ量が12万トンと前年、平成3年の1/5の量しか獲れていませんし、今年も今のところほとんど獲れていない状況です。この影響をもろに受けているのがミール工場や関連の運輸業界で、かなり厳しい状況に追い込まれています。

—— 観光面には明るい兆しが見えていると思うのですが。

阪元 ええ、最近特に観光が注目を集めてきています。全道的にみて、昨年は観光客の入り込み数が若干落ちているのですが、釧路管内は994万2,000人の入り込みがありました。ほぼ横ばいという状態です。平成4年までは全道的に平均10%程度の伸びを続けてきましたが、今年に入って、この6月に行われたラムサール国際会議によって釧路の名前が全国に知れわたったこと、同時に釧路湿原が注目され始めたこと、昨年の大阪への直行便に続き7月に釧

路空港から名古屋への直行便が就航したことなどで、今後の釧路管内における観光の伸びは大いに期待が持てると思います。ただ問題はこの釧路空港の霧対策です。就航率が悪いというイメージが強いわけですが、年平均では94%なんです。そこで平成7年度の完成をめざしてカテゴリーIII A（計器着陸システム）の工事を進めています。現在は進入高度が60m、滑走路800mの視界がなければ着陸できなかったものが、計器誘導になれば高さが15m、滑走路視界が200mあれば良く100%近い離着陸が可能になります。これによって道東の観光の流れが大幅に変わると思いますね。今の釧路は霧のために釧路空港の離発着をメインに組むエイジェントがないんです。しかし完成後は、釧路を旅行の拠点として道東観光を楽しむことができるようになり、新たな観光ルートができると思います。

—— 釧路沖地震の復旧状況はいかがですか。

阪元 災害復旧の進捗状況は、国道及び道道、港の応急処置などはほとんど完了して、現在は釧路副港の復旧と港の港湾施設の復旧が本格的に始まっており、工事も順調に進んでいまして関係者の方々には感謝しております。

—— 北海道における釧路支庁管内の位置づけはどのようになっていますか。

阪元 水産、酪農、紙、石炭の4つの基幹産業の道内における位置づけとしては、いずれも高いところに位置していると考えます。水産においては昨年若干落ち込んだにしろ、全道で90万t程の水揚げあった内の40%を占めていますし、漁獲高では651億円で16.7%、また水産加工品でも49万5,000tということで36%、これは平成3年度の数字ですがかなりの位置づけといえます。また、酪農については乳用牛が12万6,000頭で生乳の生産量が48万tとなっており、いずれも全道シェアの14%を占めています。つぎに林業に目を転じてみますと、森林面積はそれほど広くなくて、全道比7%で39万haくらいです。ただ紙パルプはここに日本製紙と本州製紙の2社ありまして、パルプ生産量は全道の28.1%約1/3に達しています。

石炭に関しましては段階的縮小という方向に進んでおりますが、太平洋炭鉱は最後まで残れる炭鉱だと考えております。現在21万tの生産量がありますが、これは全道比54%ですし、全国的にみても29%を占めているわけです。

このように、さまざまな状況を含んではいますが、釧路支庁管内は北海道において重要な地域であることは否めないと思います。

—— 次に平成5年度の目玉事業

をお聞きしたいのですが。
阪元 目玉事業というほどのものはないのですが、大きな事業としては広域営農団地農道整備事業という形で、音別町から厚岸町を結ぶ釧路地区の広域農道をつくるものがあります。全長が87.5キロメートルでその内の道がやる分の64キロを着工しています。5年度は釧路東地区という形で、釧路湿原近くの釧路川を横断する釧路湿原大橋というのをつくって、これは延長が550mあり、釧路川に架かる最長の橋になるため、観光の目玉にもなると思われれます。工法も型や構造を湿原に影響のないようにと、水の出入りなどを考慮して造っております。

—— 最後に建設業界に対しての提言や、望むことを一言。

阪元 北海道の建設業界は、全国に比べて2次産業における位置付けが非常に高いと思いますね。つまり各地域における基幹産業は建設業だともいえ、建設会社の社長さんたちは地域のリーダー的存在になっています。ですから、私がこの業界にお願いしたいことは積極的にまちづくりに参加して欲しいということです。それも業界としての独自のプランを持って地域の活性化に力を貸して頂きたいということですね。建設業界にはそれだけの力があると私は思います。

—— ありがとうございます。

釧路支庁管内はさまざま問題を抱えながらも、北海道におけるその位置付けは高く、重要な地域であると阪元兵三（さかもと・ひょうぞう）支庁長は話す。そして、4大基幹産業に加え、ラムサール国際会議以降とくに観光面の伸びが有望であり、釧路空港のカテゴリーIII A 完成後はさらに期待できると言う。

公共事業は前年度比40%増

—— まず最初に釧路支庁管内の全体像と、現在の状況をお聞きしたいのですが。

阪元 この管内は1市8町1村で面積は約6,000平方キロメートルありまして、これはほぼ茨城県と同じ広さになり、人口は29万4,000人ほどです。この内釧路市が20万3,000人で管内の70%が集中しているこ

とになります。

管内の基幹産業は、水産、酪農、それに石炭と紙パルプということになります。いずれも国際競争などで厳しい状況を強いられております。ただ今年は今のところ、6月に行われたラムサール国際会議の波及効果ですとか、被災者の方々には心よりお見舞い申し上げますが、1月